

大津・まもり隊

ご挨拶



深秋の候、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。コロナ禍が続くなか、ウクライナ情勢や歴史的な円安などが要因となって、市民生活や企業活動に様々な影響が生じています。大津市においても国からの交付金を活用し、電力・ガス・食料品等の高騰に対して、市独自の支援を行うための費用が補正予算で措置をされましたが、先行きは不透明であり、経済状況のさらなる悪化が懸念されます。

過日、学校生活や日常生活に息苦しさを抱える子どもたちの支援に取り組まれている社会福祉士の方から、ガソリン価格や光熱費の高騰が事業運営に多大な影響を及ぼしているとお聞かせいただきました。家庭環境などに起因して、安心して過ごすことのできる居場所を必要とする子どもたちへの支援をより一層充実させるためにも、来る11月通常会議、大津市に対してさらなる取り組みを求めてまいります。

私は、「タニフェスト 議会機能フル稼働宣言！！」を選挙公約として掲げました。本会議での一般質問や委員会における指摘・提言などを通じて実現に取り組んでいます。タニフェストのうち、共生社会の実現に向けた取り組みについては、バリアフリーのさらなる推進を求める声が数多く寄せられています。この10月には（公社）滋賀県建築士会大津地区委員会に所属する一級建築士として、におの浜ふれあいスポーツセンターならびに瀬田公園体育館で実施された「公共施設バリアフリーチェック」に参加をしてまいりました。施設を利用する側（障害者・高齢者等）の立場で移動等の障壁となっている箇所を直接確認し、施設所管課とともにバリアフリーを推進するための取り組みであり、調査結果は大津市障害者自立支援協議会（差別解消部会）へ情報提供されることとなります。昨年度は大津市民会館／大津公民館を対象に実施をされ、指摘を踏まえて駐車場の再整備が行われました。誰もが安心して利用できる公共施設の整備促進が図られるよう、引き続き取り組んでまいります。

結びになりましたが、この度、第17回マニフェスト大賞において、タニフェストに掲げて取り組んできた、近江八景と東海道でつながる大津市と草津市による景観づくりがローカル・マニフェスト大賞〈議員・会派の部〉優秀賞に選出をされました。びわこ大津草津景観宣言のさらなる実現に貢献できるよう、これからも精一杯努めてまいります。

大津市議会議員 谷 祐治



Manifesto Awards

第17回 マニフェスト大賞 優秀賞を受賞

政策本位の政治を目指す全国の首長や地方議員、市民らを表彰する「第17回マニフェスト大賞」（主催：同大賞実行委員会 共催：早稲田大学マニフェスト研究所、毎日新聞社）の優秀賞が10月7日に発表され、過去最多となる応募総数3,133件の中から、谷祐治が応募した「びわこ大津草津景観推進協議会・びわこ東海道景観協議会による景観基本計画の策定と東海道の魅力を発信する統一案内看板の創造」がローカル・マニフェスト大賞〈議員・会派の部〉優秀賞に選出されました。

選挙公約「タニフェスト 谷ゆうじの約束」に基づく取り組みが評価されたものであり、第10回に続く2度目の優秀賞受賞となりました。各部門における最優秀賞については、11月11日に六本木アカデミーヒルズで開催される授賞式において発表される予定となっています。

ローカル・マニフェスト大賞〈議員・会派の部〉優秀賞（順不同）

■ 大津市議会議員 谷 祐治（滋賀県大津市）

- 公明党荒川区議会議員団（東京都荒川区）
- よこはま自民党（自由民主党横浜市支部連合会・横浜市会自由民主党・無所属の会）
- みらい川崎市議会議員団（神奈川県川崎市）
- 福岡市民クラブ（福岡県福岡市）



谷ゆうじ プロフィール

S48年 大津市生まれ。志賀小、唐崎中、石山高等学校 卒業
 H8年 近畿大学理工学部建築学科 卒業
 H12年 一級建築士 免許登録
 H15年～ NPO法人 滋賀県健康福祉会 理事長
 H18年 滋賀県景観審議会 委員（H21年まで）

H19年 大津市議会議員に初当選（現在4期目）
 H24年 （一社）大津青年会議所 理事長（H25年まで）
 H27年 マニフェスト大賞 優秀マニフェスト賞 受賞
 H28年 （公社）日本建築家協会近畿支部 滋賀地域会長（R2年まで）
 H28年 （公社）日本建築士会連合会 まちづくり賞 受賞

H29年 大津市議会・草津市議会連携推進会議 座長（R3年まで）
 R元年～ びわこ東海道景観協議会 委員
 R2年 （公社）日本都市計画学会関西支部 関西まちづくり賞 受賞
 R3年～ 滋賀県立石山高等学校同窓会 会長

タニフェスト2019 実現に向けた取り組み

【令和4年2月 通常会議】

タニフェスト 防災力・減災力の向上

大津市避難所施設応急危険度判定士の 制度構築に向けた取り組みについて

大規模地震発生時に指定避難所を速やかに開設できるよう、被災建築物応急危険度判定士（以下、同判定士）をあらかじめ学区単位で配備する（仮称）「大津市避難所施設応急危険度判定士」の制度構築を提言しました。

現時点における想定は、まずもって、施設管理者または避難所担当員を務められる市職員が簡易なチェックリストに基づき安全確認を行います。安全と判断できなかった場合には、災害対策本部による意思決定のもと、建設部建築課からの依頼に基づき、大津市と協定書を締結する（公社）滋賀県建築士会大津地区委員会・同湖西滋賀地区委員会に所属する同判定士が判定を実施することになります。

しかしながら、大規模地震発生時には、電話回線の混雑が想定されます。また、市役所本館棟・別館棟は庁舎として必要な耐震性能を有しておらず、同判定士の派遣依頼が訓練の通り円滑に行えるものなのか、危惧するものです。あらたな制度の構築にあたっては、滋賀県建築士会両地区委員会の会員のみならず、応急危険度判定士の資格を有する市民を対象に広く支援を求める必要がありますが、事前に定められた各支所において、支所長（初動支所班長）から直接依頼を受けていただければ、より迅速に避難所を開設することができます。また、事前の配備によって、避難所担当員との連携が強化されることになり、地域における防災対策を高める効果も期待できます。

令和3年6月通常会議において、大津市からは、避難所施設に応急危険度判定士を事前に割り当てておくことは、人数の確保などの課題はあるものの、早期の避難所開設及び迅速な市民の避難に有効であると考えられることから、建築士会と相談していく方針が示されました。令和4年1月、大津市危機・防災対策課と同会との意見交換に応急危険度判定士として参加をし、現状における課題認識をあらためて共有したところです。

応急危険度判定士については、滋賀県知事が認定書を発行されており、大津市は同判定士の名簿を保有していません。まずは、市内に在住または在勤されている建築士に対して、滋賀県が主催される研修への受講を働きかけ、同判定士そのものの増員を図るところから開始する必要があります。指定避難所数に見合うだけの人数に登録いただくには相当の年数を要すると見込まれますが、認定を更新（5年更新）いただく上での動機づけとなるよう、滋賀県とも連携を図りながら、大津市が避難所開設にあたって抱える課題を情報発信していくことで、防災対応力の強化に寄与する制度になると提言をしました。

大津市からは、学区単位における同判定士の事前配備について、人数の確保が課題である中で、まずは広報紙で建築士の皆様に滋賀県による認定を受けていただくよう呼びかけていくこと、また、当該認定を受ける方を増やすため、どのような方策がとれるのか、認定制度を運用する滋賀県と協議していく方針が示されました。

この他、下記テーマについて、質疑・一般質問を行いました。

- ▶ 相次ぐ医師の退職が地方独立行政法人市立大津市民病院の運営に及ぼす影響について
- ▶ 浄水発生土に水草の堆肥をブレンドした「びわ湖産の土」のさらなる活用に向けた取り組みについて
- ▶ 防災拠点施設でありながら必要な耐震化が今もって図られていない本庁舎の整備に向けた取り組みについて

市議会本会議での指摘・提言内容については、谷ゆうじホームページ「指摘・提言の実績」でご覧いただけます。



HP活動レポートより

9月24日、田上小学校を主会場として、令和4年度大津市総合防災訓練が開催されました。公益社団法人滋賀県建築士会大津地区委員会の一員として、大規模地震の発生を想定した避難所開設訓練に参加をしました。これまでの間、避難所施設の安全確認（セーフティチェック）をできるだけ速やかに実現できるよう、大津市総務部危機・防災課、同建設部建築課の皆さんと課題認識を共有してきました。体制の強化は喫緊の課題であり、建築士会会員に限定されることなく、より多くの被災建築物応急危険度判定士に協力いただける

体制を早期に構築されるべきと考えます。大地震はいつ発生するかわかりません。指定避難所をより円滑に開設いただけるよう、平時からの取り組みを積み重ねてまいります。

【令和4年6月 通常会議】

タニフェスト 共生社会の実現

共生社会の実現推進に向けた取り組みについて

○大津市公共サインガイドラインの策定に向けた取り組みについて

大津市は様々な目的で公共空間に地図や標識等（以下「公共サイン」）を設置していますが、適切に維持管理されていないものが市内各地で散見されます。表記の修正については、所管課の枠組みを超え、大津市として一元的に対応されるべきであり、誤った情報が発信されている現状は早期に解消されなければなりません。

公共サインの整備更新、維持管理を行うにあたり、景観や周辺環境との調和に配慮することにあわせ、ユニバーサルデザインの視点を踏まえながら、新たに「大津市公共サインガイドライン」を策定されることを提言しました。

大津市からは、地図や案内板等は誰にとっても見やすく、分かりやすいという情報伝達としての役割だけでなく、まちの景観を構成する重要な要素の一つであるため、今後、本市の地図や案内板等のデザインや維持管理の指針について、他都市の事例を参考に調査・研究するとともに、現在、策定作業を進めている第2次大津市景観計画へ位置付けていく方針が示されました。

○ユニバーサルデザインに配慮した公園遊具の設置に向けた取り組みについて

大津市は第4次大津市緑の基本計画のコラム欄に障害のある方や障害のある子どもたちの保護者、また、支援者の皆さんから寄せられた、公園で遊ぶときに困っていることや希望などを掲載しています。令和3年12月通常会議において、寄せられたご意見をどの様な取り組みのもとで施設整備に反映させていくつもりなのか、多くの市民が利用する皇子が丘公園での設置を念頭に見解を求めました。大津市からは、今後見込まれる同公園全体の維持管理経費が多額であるため、現時点においては、ユニバーサルデザインに配慮した遊具の整備までは困難であるとの見解が示されましたが、寄せられた貴重な意見は反映していく意思を示されました。

近年、多くの都市でユニバーサルデザインに配慮した遊具が設置されています。皇子が丘公園や他の都市公園においても、大型遊具に限ることなく、ユニバーサルデザインに配慮した遊具を計画的に増設していくことで、第4次大津市緑の基本計画策定時に寄せられた意見を反映することにつながると考えます。今後、どういった方針のもと、ユニバーサルデザインに配慮した公園遊具の設置に取り組んでいくつもりなのか、あらためて大津市に見解を求めました。

大津市からは、第4次大津市緑の基本計画に基づき、市民の皆様が多く利用される各地域の主要な公園などを対象として、ユニバーサルデザインに配慮した遊具の設置について検討していくとの方針が示されました。誰もが利用しやすい公園の整備促進が図られるよう、引き続き取り組んでまいります。

○「大津絵の道」におけるバリアフリーの推進に向けた取り組みについて

週日、滋賀県立琵琶湖文化館の後継施設建設予定地と大津市歴史博物館をつなぐ「大津絵の道」の現状をバリアフリーの視点で調査しました。現在、大津市は「なぎさ公園周辺魅力向上プロジェクト」に取り組んでいます。大津港港湾業務用地の一部に建設が予定されている新琵琶湖文化館と大津市歴史博物館を結ぶ「大津絵の道」を誰もが安心して快適に移動できる道として整備することは、町の魅力向上にもつながると考え、共生社会の推進実現に向けた今後の取り組みについて見解を求めました。

大津市からは、「大津絵の道」の一部が大津市バリアフリー基本構想の重点整備地区である、JR大津駅・京阪びわこ浜大津駅周辺地区における生活関連経路に位置付けられていることを踏まえ、今後、必要に応じて適切に修繕や改修を行っていく方針が示されました。



大津市民会館前に設置された音声・触知案内図



長等市民センター前（大津絵の道沿い）周辺地図

この他、下記テーマについて、質疑・一般質問を行いました。

- ▶大規模地震発生時において施設管理者等が避難所施設の安全性を確認するために必要となる平常時からの取り組みについて
- ▶大津市庁舎整備推進本部会議において皇子山総合運動公園を「優先して検討を行うおおよその候補地」として決定されるまでの経過と庁舎移転整備に対する大津市長の課題認識について

【令和4年8月 通常会議】

タニフェスト 防災力・減災力の向上

大津市庁舎整備基本構想の実現性を再検証することについて



○皇子山総合運動公園での整備について

令和4年8月、大津市庁舎整備基本構想（たたき台）が市議会に対して示されました。大津市は「優先して検討を行う候補地」としている皇子山総合運動公園での整備について、現法規制等での必要規模の建設可否を「不可」としており、その上で「都市計画公園の計画決定変更が必要であり、庁舎跡地を代替地として検討」、「南側通路は建築基準法の道路ではないため、この通路のみ接する敷地設定では建築不可」、もしくは「市道認定手続きとともに信号機の設置等公園出入口への対策（市建築基準条例）が必要」との見解を示しています。

大津市都市計画部からは、当該都市公園の計画変更は滋賀県が決定すると説明を受けていますが、公共施設対策特別委員会において、滋賀県都市計画課とは事前に協議を行っていないことが明らかとなりました。市民アンケートの結果を踏まえ、皇子山総合運動公園を優先して検討を行う候補地とされながら、その実現性に対する検証が不足しているのではないかと懸念するものです。

私は、公共施設対策特別委員会において、検討に際して作成された図面の開示を大津市に要望しました。委員会終了後、正副委員長の判断の下、執行部に確認がなされたところ、「委員会資料として提供できる関係法令に則した検討など、具体的なシミュレーションを踏まえた図面は作成していない」との回答が議会局を通じてありました。ではなぜ、関係法令に則した検討が行われないなか、建設不可である都市公園を優先して検討を行う候補地と位置付けることができるかと判断されたのか、大津市に見解を求めました。

大津市からは、候補地の選定にあたっては、まず立地条件、庁舎整備に必要な敷地面積の規模、庁舎整備に向けて将来的に取得の可能性のある公有地を条件として選定していること、また、当該公園においては、都市計画公園であることなどの解決すべき課題は認識した上で、まずは、市民アンケートにおいて市民の皆様の立地場所に対する意向を確認したとの見解が示されました。この結果、半数の方が皇子山総合運動公園を立地場所に考えていることから、基本構想において優先して検討を行う候補地と位置付けるとともに、庁内組織である庁舎整備推進本部にワーキングチームを設置して、関係法令に則した検討を有識者からのアドバイス等もいただきながら進めていくとの方針が示されました。

○ワーキングチームの設置と公園整備に係るスケジュールの検証について

大津市庁舎整備推進本部会議に係る職員によって組織されるワーキングチームを直ちに設置をされ、基本構想策定までに実現性をあらためて精査されるべきと指摘しました。6月通常会議においても早期の設置を求めましたが、今後、検討の段階に応じて設置していくとの見解が示されました。皇子山総合運動公園で整備する場合における今後のスケジュールでは、令和4年度に基本構想を策定され、令和6年度からの基本計画策定にあたり、令和5年度にワークショップと基本計画に向けた基礎調査を実施される方針が示されています。しかしながら、公園整備に係るスケジュールについては別途整理を行うとされており、これでは、用地取得や都市計画変更に伴う手続きの時期を基本構想に記すことができないと考えます。ワーキングチームの設置に対する方針と公園整備に係るスケジュールを早期に検証することの必要性について、大津市長に見解を求めました。

大津市からは、10月に公園との一体的な整備に関するワーキングチームの設置を予定しているところであり、公園整備に係るスケジュールについても、当該ワーキングチームにおいて検討していく予定であると見解が示されました。

追記 大津市庁舎整備基本構想の策定にあたって

令和元年6月通常会議以降、タニフェスト2019に掲げた「防災力・減災力の向上 命を守る災害対応拠点」の実現を目指し、必要な耐震化が今もって図られていない、本庁舎の整備に向けた取り組みをテーマに質疑・一般質問を重ねてきました。（計9回）

現在、別館棟に位置する中消防署については、びわこ競艇場駐車場用地（県有地）の一部を取得し、令和6年度の竣工に向けて、移転整備に向けた取り組みが進められています。議会における指摘・提言を通じて、移転候補地の絞り込みを先導することができました。

令和2年9月通常会議、庁舎整備を検討する上で不確定要素となっていた中消防署移転用地の絞り込みが実現したことを踏まえ、庁舎整備に向けた検討を加速させることをあらためて求めました。大津市からは、新型コロナウイルスによる影響も加味しながら、これまで検討のベースとしてきた整備パターンにとらわれず、庁舎規模や整備手法などを検討し、まずは庁舎整備の基本構想を策定するとの見解が示されました。

令和3年度以降、副市長をトップとする庁内推進本部会議と外部有識者によって組織される懇話会が設置され、今年度においては市民アンケート調査が実施をされました。市民の意見を踏まえて基本構想を策定することについては賛同するものですが、不確定要素があまりにも多いと評価するものです。

大津市は庁舎整備基本構想において、検討を行う候補地として、皇子山総合運動公園（公園の一部）ならびに大津駅・県庁周辺を掲げています。それぞれ



本館棟



別館棟

「優先して」「新しい視点で」との前置きがなされていますが、基本構想では選択肢が二つ示されることとなります。そのうえで、大津駅・県庁周辺においては、他の施設との複合化や官民連携など「新しい視点」からも検討を行うとされていますが、具体的な敷地や建物は示されておらず、候補エリアの現況として、国土地理院撮影による空中写真のみが掲載されています。二つの候補地を対象として、何をどこまで平行して検討されるのか、今もって明確にされていません。

令和6年度に予定されている基本計画の策定に向け、不確定要素は多く、検討事項は多岐に渡ります。令和5年度、基本計画に向けた調査やワークショップが実施される予定となっていますが、本来であれば、もっと早期にワーキングチームを設置し、庁内連携を十分に図ったうえで、庁舎整備基本構想を策定されるべきであったと考えます。令和4年度下半期、基本計画の策定に必要な検証や検討が加速するよう、引き続き指摘・提言を行ってまいります。

市民生活に深刻な影響を及ぼす豪雨災害への対応力強化について

○京阪電車石山坂本線軌道内への土砂流入を防ぐための取り組みについて

令和4年7月19日、大雨に伴う河川や道路側溝からの溢水により、軌道内へ土砂が大量に流入する事態が発生しました。過日、京阪電気鉄道株式会社を訪問し、沿線の被害状況について認識を深めてまいりました。全線での運休が上下線あわせて17本、部分運休が同じく20本発生するなど、市民生活に多大な影響を及ぼす事態となりました。昨年にも大雨による被害が発生しており、公共交通機関として、大変強い危機感を抱いておられました。下記は同社より提供いただいた写真です。

また、大津市役所側から皇子山総合運動公園・テニスコートに向かって軌道を横断する山上開渠と呼ばれる熊野川水路についても、土砂の流入によって河川断面が損なわれやすいことを危惧されてきました。今年の5月に浚渫されたばかりでしたが、7月19日に降った大雨の影響により、線路下端付近まで土砂が堆積し、降雨が長引けばより甚大な被害につながる恐れがあったと知りました。



南滋賀駅北側 大川踏切／軌道内への土砂流入 【京阪電気鉄道株式会社提供】



滋賀里12号踏切／道路側溝・菊の尾川から流入する土砂 【京阪電気鉄道株式会社提供】

公共交通機関である同線の運休は世代を問わず、市民生活に多大な影響を及ぼすこととなります。相次ぐ災害の発生を受け、大津市は今後、どのような方針のもとでリスクの軽減に取り組んでいくつもりなのか。滋賀県との協議経過とあわせて答弁を求めました。

大津市からは、去る7月28日、市・県・京阪電車の3者による情報共有会議、8月31日には現場立会を実施され、現状の課題や今後の対策について協議が行われたこと、また、施設の適正な維持管理を図るとともに、今後も関係機関と連携していく方針が示されました。

○山中比叡平学区における大雨災害対策について

令和4年8月、比叡平市民センターで開催された山中比叡平学区大雨災害対策会議に出席しました。今年度、大津市においては調整池の機能に関する調査結果を踏まえ、適宜、必要となる対策を講じていくとの方針を示されていますが、山中町では昨年に引き続き水害が発生しており、早急な対応が求められます。現時点における進捗と今後の具体的な取り組みについて答弁を求めました。

大津市からは、今年度、鼠谷川の支流の河川の補修と併せ、上流部に設置されている3箇所の洪水調整池について、堆積物の状況等を順次調査しており、今後の治水対策について検討していくこと、また、洪水調整池に堆積した土砂については、来年度から国の制度を活用した浚渫事業を予定しているものの、今後の国の補正予算の動向にも注視しながら、出来るだけ早期の実施に努めていく方針が示されました。

タニフェスト 広域景観連携の推進

近江八景と東海道でつながる大津市と草津市の景観連携について

○東海道の魅力を発信する統一案内看板のさらなる普及に向けた取り組みについて

平成29年10月に公益社団法人滋賀県建築士会大津地区委員会・同湖南地区委員会からモデル看板が両市に寄贈されて以降、平成30年11月には、びわこ大津草津景観推進協議会・東海道統一案内看板専門部会により同看板設置の手引きが作成され、現在、同看板は両市域のみならず、滋賀県内全ての宿場町（湖南市／石部宿、甲賀市／水口宿・土山宿）に普及しています。

近江八景と東海道でつながる両市の魅力を全国に発信し、他の宿場町から共感を得ることは、次世代に理念を継承する上で重要と考えます。令和3年2月通常会議、私は東海道統一案内看板（以下、統一案内看板）を全国の宿場町に設置いただけるよう、草津市と連携を図りながら取り組まれることを提言しました。統一案内看板の手引きを送付し、設置いただけるよう働きかけていくとの方針が示されましたが、今日に至るまでの間、具体的にどの様な働きかけが行われ、その成果はどの様なものであったのか。統一案内看板のさらなる普及に向けた今後の方針とあわせて見解を求めました。

大津市からは、令和3年度、東海道の宿場町のある全国33の自治体に統一案内看板の手引きを送付し、設置いただけるよう働きかけたこと、また、今後も、草津市や公益社団法人滋賀県建築士会のほか、同事業に賛同いただける方々とともに統一案内看板のさらなる普及に取り組んでいく方針が示されました。

○びわこ大津草津景観宣言のさらなる実現に向けた取り組みについて

令和4年5月、「近江八景と東海道でつながる大津市と草津市の景観づくり」が都市景観大賞／景観まちづくり活動・教育部門において優秀賞に選定され、令和2年3月には公益社団法人日本都市計画学会関西支部が主催する「関西まちづくり賞」を受賞しました。これは私自身の実感ですが、行政のみならず、両市の市民、両市の市議会、東海道のまちづくりに取り組む団体、大学、商工観光団体などが理念を共有し、両市の連携をより良い形で発展させることに取り組んできたことが評価につながったと考えます。令和5年11月には「びわこ大津草津景観宣言」が両市市長によって調印され、びわこ大津草津景観推進協議会が設立されてから10年という節目の年を迎えます。令和5年度、大津市はどの様な方針のもと「びわこ大津草津景観宣言」の実現に向けた事業に取り組んでいく方針なのか。これまで取り組んできた活動の成果とあわせて見解を求めました。

大津市からは、平成25年11月に調印された「びわこ大津草津景観宣言」を踏まえ、両市が連携協力して景観に関する施策に取り組むため、令和3年3月に「びわこ東海道景観基本計画」を策定し、広域的な観点から良好な景観形成に取り組んでいくこと、また、策定作業を進めている第2次大津市景観計画においても同基本計画を反映し、琵琶湖の対岸からの眺望に配慮した景観づくりを目指していきたいと考えが示されました。

令和5年度、琵琶湖と東海道でつながる草津市との連携をより一層深められるよう、私自身も努めてまいります。

タニフェスト 地域社会の活性化

大津市立図書館の今後のあり方について

○「大津市図書館の基本的運営方針」の改定に向けた取り組みについて

平成30年3月、大津市教育委員会は大津市立図書館が市民にとって、最も身近な公共施設となることを目指し、大津市図書館の基本的運営方針を策定しました。しかしながら、大津市総合計画実行計画をはじめ、教育振興基本計画に位置付けられた生涯学習推進計画、子ども読書活動推進計画、文化振興計画との関係性が明確にされておらず、改定期間についても明らかにされていません。関連する各種計画と整合性をはかり、大津市立図書館の運営を通じてこれら計画の推進に寄与するためにも、図書館協議会の意見を踏まえながら、適宜見直しを行っていくべきと考えます。今後、大津市教育委員会はどの様な方針のもとで基本的運営方針を改定していくつもりなのか、見解を求めました。

大津市教育委員会からは、策定から4年が経過し、市民ニーズの多様化やICTの急速な進展、新型コロナウイルス感染症の影響など、図書館を取り巻く社会情勢が変化している状況に鑑み、時代に即した方針となるよう見直していく方針が示されました。

○大津市立図書館本館の再整備に向けた検討について

大津市長は自らの選挙時において、「活力と魅力あふれる大津～なぎさ公園魅力向上プロジェクト～」を掲げ、このなかで、「図書館と市民会館の再整備の検討」を明記されました。現在、大津市においてはなぎさ公園周辺魅力向上プロジェクトに取り組まれており、びわ湖浜大津駅周辺に立地する文化、芸術、社会教育に関する広域施設に求められる機能や役割について調査を実施されています。

私は、大津宿場町構想となぎさ公園周辺魅力向上プロジェクトのあり方に関連して、令和3年9月通常会議、大津市立図書

館本館の移転整備に向けた取り組みについて指摘提言を行いました。その際、副市長は（仮称）新・琵琶湖文化館の整備を契機として、図書館を含む市有広域施設それぞれが相乗効果を発揮するために、今日に求められる機能や取組について、調査、整理をしていくとの主旨で答弁がなされています。

また、令和4年8月31日付で公共施設対策特別委員会に明らかにされた大津市庁舎整備基本構想（たたき台）において、「優先して検討を行う候補地」とされた皇子山総合運動公園ならびに市民アンケート結果を踏まえて「新しい視点で検討を行う候補地」とされた大津駅・県庁周辺それぞれにおいて、図書館機能が複合化の対象となる公共施設機能に含まれています。市長は自らの任期期間において、公約に掲げられた図書館の再整備に向けた検討をどのような方針のもとで実現されていけるつもりなのか、見解を求めました。

大津市からは、図書館をはじめとする市有施設の利活用及び整備の在り方を検討する際の資料を得ることを目的として、昨年11月から本年7月にかけて調査を実施し、図書館については、駐車場の確保、読書や休憩のためのスペースの設置など、機能の向上が望まれているなどの結果を得たとの答弁がなされました。また、どのような方針のもとで実現するかについては、本調査の結果を踏まえるとともに、庁舎整備基本構想策定に関する市民アンケートにおいて、文化施設などの複合化を求める声も一定数あることから、引き続き、市民や施設の利用者のニーズを把握しながら、様々な可能性を考慮して検討を進めるべきとの考えが示されました。

タニフェスト 子どもの健やかな成長

だれもが一緒に育ちあえる保育の充実に向けた取り組みについて

現在、大津市においては、子ども未来局子ども・若者政策課によって、公立幼稚園・保育園の適正配置の検討が進められています。公の役割や地域の特性、人口推計などを踏まえ、今年度中に方針が示される予定となっておりますが、保育体制のさらなる充実には本市にとって喫緊の課題です。令和2年3月、大津市立保育園の民営化方針は白紙に戻されましたが、その影響は現在も公立保育園おける保育士の体制に影響を及ぼしています。

幼保支援課から提供を受けた資料によると、大津市は令和4年度に19名、令和3年度に14名を正規職員として採用されましたが、令和2年度においては公立保育園としての存続が不確定な状況の中で募集が行われており、募集人数は若干名、採用された人数は1名でした。また、大津市立保育園の入所率は平成30年度から令和3年度にかけて減少傾向をたどり、令和4年4月1日時点における大津市立保育園の入所率は70.7%でした。4年前の同時期に比べて17.9%減少しています。

この結果に対して、支援が必要となる子どもの保育をより充実したものとするため、通常の職員数に加えて配置される職員数（加配職員）の割合は平成30年度が31.4%であったのに対して、令和4年度においては40%となっております。だれもが一緒に育ちあえる保育の充実に向けて取り組まれていることを高く評価するものですが、必要とされる保育体制が整わないと、たとえ、定員に空きがあり、入所を希望する園児・保護者がおられたとしても受け入れることが困難となります。大津市は正規職員として採用されている現在の保育士数をだれもが一緒に育ちあえる保育の充実を図る観点からどの様に評価しているのか、計画的な増員に向けた次年度以降の方針とあわせて答弁を求めました。

大津市からは、公立保育園は保育を必要とする乳幼児一人ひとりの命と権利を守るセーフティネットとしての役割を担っており、集団の中で共に育ちあい、一人ひとりの発達を保障する保育の推進を目指して、きめ細やかな保育を積み上げていること、また、今後も引き続き正規職員の計画的な採用に努めていくとの見解が示されました。

議会機能フル稼働宣言!!

チェック機能と政策立案機能の充実強化に率先して取り組んでいます。



本会議 質疑一般質問

毎定例会、自らの持ち時間をフル活用し、市長から提出された議案や市政各般にわたる諸課題をテーマに指摘提言を行っています。タニフェストの実現に向けてなくてはならない機会です。

予算決算常任委員会

令和3年度一般会計予算の認定にあたっては、小額随意契約に関して、定められた金額を超えていなければよいということだけでなく、公平公正な市政運営が損なわれないよう、あらためて留意されることを求めました。

常任委員会・特別委員会

昨年度に引き続き、総務常任委員会と公共施設対策特別委員会に所属しています。常任委員会においては、大津市災害等対策基本条例の検証の検証などをテーマに、また、特別委員会においては、庁舎整備基本構想などをテーマに調査を行いました。

政策検討会議

令和4年度、全ての政策検討会議（①若者の議会への関心と投票率向上の仕組みづくり②歯と口腔の健康づくり③公文書管理のあり方）に委員として参加をし、会派の枠組み越えて議論を重ねました。

ご挨拶

谷ゆうじ後援会 会長 今井 正人

旅行者も増え、海外からの渡航者の受け入れも緩和され、なんとなくコロナは収まったのかな？と錯覚しがちの昨今ですが、この冬にはコロナやインフルエンザの感染が広がるとの見通しもあり、予防接種や感染対策には万全を期したいものです。会員の皆様には、日頃より後援会の活動にご協力を頂き、誠にありがとうございます。新型コロナ感染予防により、市政報告会も休止しておりましたが、今年、5月22日と6月12日の2回、市政報告会を開催させて頂き、多数のご参加を頂きましたこと心より感謝申し上げます。会場で、皆様のお顔を拝見させて頂き、元気を頂き、後援会活動の大切さを谷議員とともに感じております。



非常に重苦しい世の中であると感じているのは私だけでしょうか？ コロナ感染の収束は見えず、2月から始まったロシアによるウクライナへの軍事進攻は長期化し、7月8日の安倍晋三元総理の銃撃事件あり、物資不足と円安の影響を受けての物価上昇など、荒天のような出来事ばかりで気がめいります。このような中、私のお客様である中小企業の経営も厳しい状況が続いております。対応策として国は、小規模事業者持続化補助金や雇用調整助成金など、色々な助成金や給付金で支援してくれていますが、大津市も大津市独自の助成金制度を作って支援していますし、金融機関も「コロナ対策融資」という返済猶予付きの貸付制度を打ち立てて、中小企業の財政面をバックアップしています。今、経済の立て直しが重要ですので、谷議員におかれましては地方経済対策にも、その知恵と手腕を発揮して頂きたいと願います。

さて、大津市庁舎の建替えの問題については、前回の後援会通信でも触れさせて頂きましたが、大津市は7月に庁舎建替え候補地のアンケートを無作為に抽出した18歳以上の市民1万人に対して行いました。中間報告では、①皇子山総合運動公園エリア45%、②大津駅・県庁周辺エリア27.5%、③皇子が丘公園エリア14.6%、④唐崎駅周辺エリア10.5%でした。皇子山総合運動公園エリアは市の方針とも同調した形となりましたが、皇子山総合運動公園は都市計画上に問題があるそうです。この点については、谷議員が何度も質問され、大津市に見解を求めておられます。前回の後援会通信にも書きましたが、大規模地震が何時来るかわからない、「大地震に耐えられない庁舎」であることが最大の課題でありますので、スピード感に重きを置いて、庁舎建替えに取り組んで頂きたいと思っております。

朗報です！ 谷議員が第17回マニフェスト大賞の優秀賞を受賞されました。第10回に続く2回目の受賞ということで、後援会としても誇らしいニュースです。谷議員の政治生命である“マニフェスト”の実行が評価されることは、大変うれしい限りで、ますますのご活躍を期待するところです。

後援会活動のメイン事業でもあります「まちなみ・まもり隊」を久しぶりに開催いたします。皆様のお顔を拝見できること、笑顔で会話できること、そんなことを心待ちにしております。